

発掘調査によって明らかになった街路や門跡などの遺構は、様々な手法で整備、表示されている。見逃してしまいそうなものもあるが、下に示したのはその一例である。

門



1. 清水門



3. 桜門橋



2. 総社門

街路



5. 家老屋敷跡公園



4. 好古園



6. 姫路医療センター・淳心学院前

堀



7. 東部中濠



8. 喜斎門北側

城下町を歩く



姫路市埋蔵文化財センター

姫路市埋蔵文化財センター
Himeji City Archaeological Research Center

〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
TEL (079)252-3950 / FAX (079)252-3952
URL <http://www.city.himeji.hyogo.jp/maibun-center/>
E-mail maibun-center@city.himeji.hyogo.jp



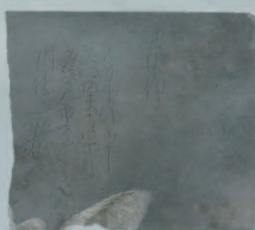
壺 桜門橋

姫路城内曲輪の南側に位置する「桜門」と中曲輪を結ぶ橋である。発掘調査によって、往時の木橋の橋脚跡が確認されるとともに、鏝や釘、鑿、刺又などが出土した。また、明治時代に作られた土橋の存在も明らかになった。



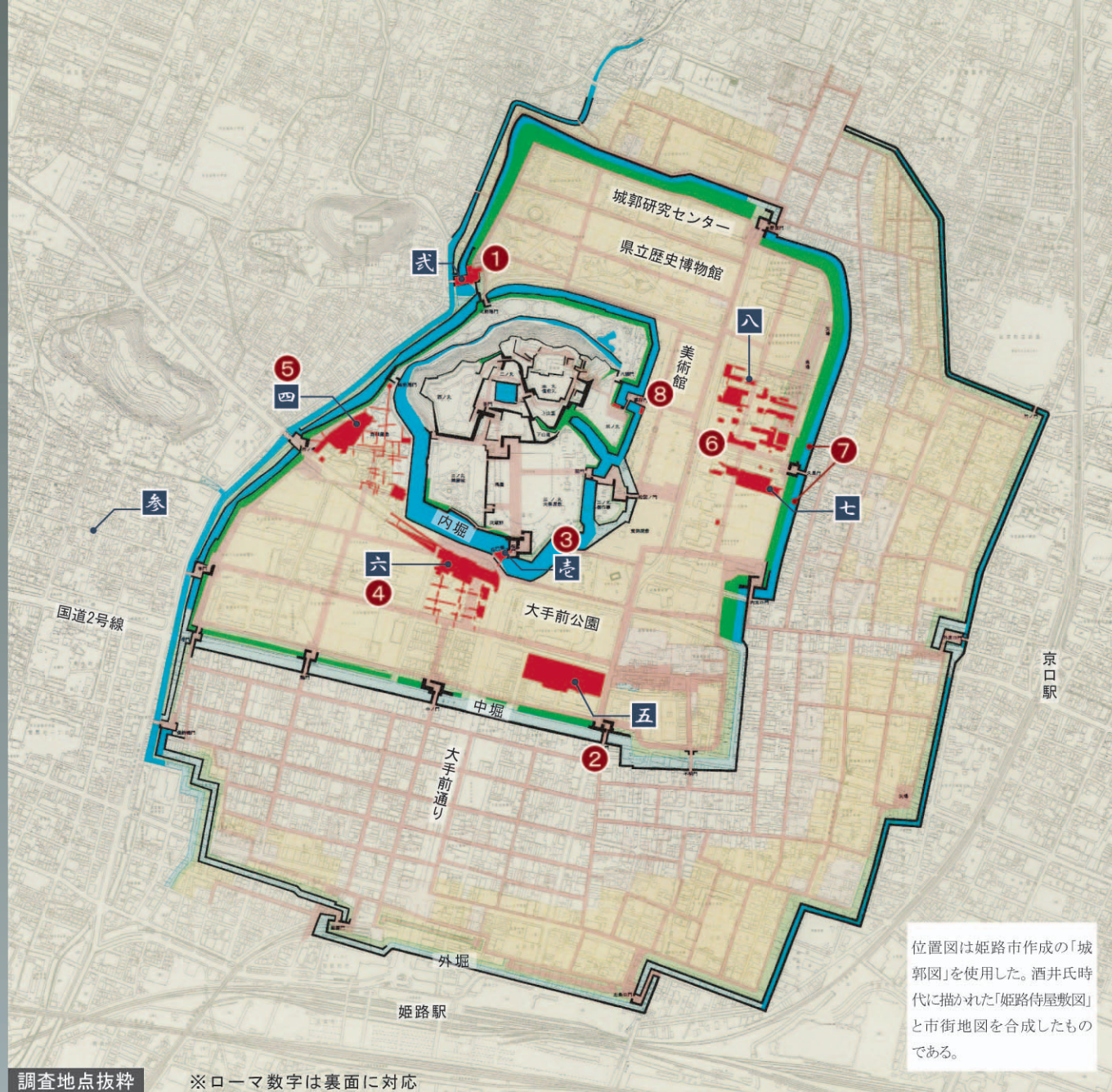
貳 清水門

門内にある「鷺の清水」が名前の由来である。比較的枡形が残っており、発掘調査によって門の礎石などが検出された。門内の井戸は、石階を有す方形の石組み井戸で、その内部に木組みの井側が残存していた。



町を東西に貫く街路が西国街道である。秀吉の時代には既に町が成立していたことが知られ、池田輝政以前の町の一つである。また、江戸時代にはこの地に瓦師が居住していたことも瓦の文字から知れる。

参 龍野町



位置図は姫路市作成の「城郭図」を使用した。酒井氏時代に描かれた「姫路侍屋敷図」と市街地図を合成したものである。

調査地点抜粋 ※ローマ数字は裏面に対応



四 西御屋敷

街路や築地基礎が検出され、町割りが明らかになるとともに、武家屋敷と藩主の西御屋敷とは石垣で区画されていたことが判明した。現在の好古園には調査成果と絵図に基づいて往時の町割りが再現されている。



大手に面した一等地にあり、「大名町」といわれた。公的施設である厩跡や、筆頭家老・高須家の屋敷遺構のほか、大手筋や大名町の街路も見つかっている。また、江戸時代の遺構面の下層からは、秀吉時代の遺構・遺物もまとも出土しており、姫路城下町研究の最重要地点のひとつである。

八 姫路医療センター



「上岐阜町」街路をはさんだ武家屋敷地である。街路や「桐の馬場」の溝といった町割りに関する遺構とともに、武家屋敷内の池も多く見つかっている。



七 淳心学院

城の東側のこの付近は中・上級武士が住んだ居住区にあたる。発掘調査では、「下岐阜町」街路や土塁際の街路といった町割りに関する遺構、武家屋敷内の一面を占める程の大きな池や江戸などでよく検出される階段付の地下式土坑などとともに、江戸時代後半の遺物が比較的まとまって出土した。

六 A地区



五 D地区

総社門内の武家屋敷地に位置し、地区南部には公的施設が配されていた。発掘調査では特に江戸時代前半の陶磁器類と、幕末の東山焼が豊富に出土している。後者では、当時の家老・河合家ゆかりの鳥紋をあしらった染付皿・碗など、公的施設という当地の特性を反映した資料が注目される。

